vinetur

ワイン輸出2.4%増、ピエモンテがトスカーナを上回る

上半期の海外売上高は5億6,690万ユーロに達し、ピエモンテ州はヴェネト州に次ぐ国内2位に返り咲いた

2026年11月24日（火）



2026年上半期、イタリア全体のワイン出荷が減少するなか、ピエモンテ州のワイン輸出は増加した。これにより、同州は国内有数の食品・飲料産業における存在感を高めた。

11月23日（月）にUnione Italiana Viniの観測所が公表したデータによると、同州の上半期のワイン海外売上高は5億6,690万ユーロで、前年同期比2.4%増となった。一方、同期間のイタリア全体のワイン輸出は6.2%減少した。

この実績により、ピエモンテ州は輸出額でイタリア国内2位に返り咲き、トスカーナ州を上回った。首位はヴェネト州で、輸出額が8.4%減少したものの首位を維持した。同じデータによると、トス

カーナ州は7.4%減だった。

第1四半期の数字も、ピエモンテ州の小幅な成長を示していた。輸出額は0.5%増の2億5,520万ユーロだった。その後、第2四半期に伸びが加速し、イタリアのワイン貿易全体が圧力を受けるなか、トスカーナ州を上回った。

特に好調だったのがAsti Spumante DOCGで、上半期の輸出額は7,300万ユーロに達し、28%を超える伸びを記録した。より広く見ると、イタリアのスパークリングワインは他のカテゴリーより堅調で、0.4%増加した一方、瓶詰めのスティルワインは8.9%減少した。

ピエモンテ州の原産地呼称保護付き赤ワインにとって、米国は引き続き最大の市場で、輸出のほぼ4分の1を占めた。この市場への依存が重要なのは、イタリアワイン全体にとって米国市場が年初に厳しい状況となり、上半期の業界売上が14.1%減少したためだ。Unione Italiana Viniの観測所によると、第3四半期の受注データには回復の兆しが見られた。

州当局者は、この数字がピエモンテ州の経済全体にとってワインがいかに重要かを示していると述べた。2026年上半期、同州の農産食品輸出は8.9%増加し、102億ユーロを超えた。州政府によると、ワインはその成長を牽引する主要産品であり、食品部門全体への入り口となる商品としての役割も果たし続けている。

ピエモンテ州知事のAlberto Cirio氏と、貿易・農業・観光を担当する州当局者のPaolo Bongioanni氏は、生産者が需要の変化にうまく対応しており、国際プロモーションへの公的支援が新市場の開拓に役立っていると述べた。両氏は香港、ニューヨーク、北京での貿易・販促活動に触れ、2027年には海口と上海で開かれる主要見本市への出展を予定していると語った。

この数字はピエモンテ州の枠を超えても重要な意味を持つ。イタリアのワイン輸出全体が低迷する年に、同州の成長は、市場の一部のセグメントが他よりも底堅いことを示している。特にスパークリングワインや、より広範な景気減速に耐えやすい高級原産地呼称ワインなど、需要が比較的安定したカテゴリーを探す輸入業者や流通業者、その他の飲料企業の関心を集める可能性がある。

ピエモンテ州の成長によって、特にイタリアワインの海外販売を支える重要市場である米国を中心に、国内業界が直面する課題が解消されるわけではない。それでも、同州が2.4%増となる一方でイタリア全体は6.2%減だったという対比は、全国の生産者が貿易環境の悪化に直面するなか、同州が市場全体を上回る成果を上げたことを示している。